

鶴見隆正・石井慎一郎・石井美和子(編)

骨・関節系理学療法実践マニュアル

対馬栄輝

弘前大学医学部保健学科

臨床での活用本は、内容がシンプルかつ要点を押さえていて、図表が多数盛り込まれ、かさばらない、という条件を備えていなければならないと考える。本書は、まさにそのような理想に適った本である。

本書は大きく4章で構成されている。第1章は総論的な骨関節疾患の評価方法で関節機能の評価からX線写真の見方まで述べ、以降は各論的に、第2章は上下肢の骨折疾患や腱・筋・靱帯損傷といった22項目の外傷性疾患、第3章は肩こり、膝蓋靱帯炎のような11項目の障害性疾患、第4章は脊椎疾患や変形性関節症といった10項目の変性性疾患と、どれも臨床で多く遭遇する疾患を選びすぐて解説している。しかも本のサイズは、ちょうどB5用紙を2つ折りにしたくらいである。厚過ぎず薄過ぎず、携帯に便利な大きさである。

内容は、各疾患とも疾患・障害構造の特性、理学療

法の目的・実際という流れになっている。冗長な表現は極力省かれて箇条書きで要点を解説するとともに、図表をふんだんに用いている。コンパクトに見えながらも中身が濃いことに驚き、これほどの内容をよくここまでまとめられたと感心してしまう。確かに簡素化によって、基礎的な部分については他の成書を参考にしなければならない部分もあるだろう。しかし基礎知識が備わっている理学療法士にとっては申し分なく十分で、むしろ臨床に即した独特な治療理論の展開は、私の探す限り他の成書でお目にかかれなないトピックスが盛り沢山である。

臨床の業務の中で応急的な知識の整理を要されたときは、ざっと目を通すだけでも理解できる機能性と、本格的な実践マニュアルとしても非常に役立つ充実性を併せ持った書である。私はいままで骨関節系疾患の理学療法に関する良書を模索していたが、本書のような基本的事項を網羅しつつ、斬新な治療展開まで解説したものは少ないと思う。是非一読されることをお勧めする。

●ポケット判 474頁・2色刷
定価 5,250 円(本体 5,000 円+税)
2006 年 文光堂・刊